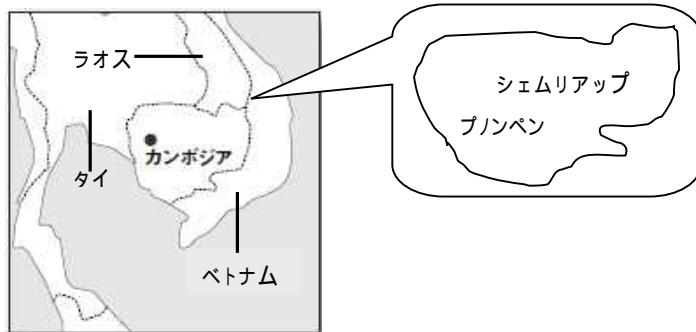


カンボジア・アンコール・プロジェクト

～ワークショップ「ボランティア活動入門」を開催～



カンボジア人の誇りである古代遺跡、アンコールワット。この遺跡を抱える町シムリアップに今年の6月より日本ユネスコ協会連盟現地事務所が開設されました。

去る6月28日、現地採用のシニン職員と事務所立ち上げの時期に奮闘してくれたインターン生の森聡美さん(元国際基督教大学ユネスコクラブ部長)により、シムリアップ市内にある私立大学BBU(Build Bright University)にてユネスコ憲章の理念やボランティア論を伝えるべくワークショップが行われました。

参加したのは、地元の大学生総勢80名。シニン職員と森さんは、共に大学時代にボランティア活動のリーダーとして学生の仲間を取りまとめた経験を生かして、民間ユネスコ活動とボランティアについて発表しました。また、学生たちもグループワークなどで「ボランティア」について考え、話し合い、発表を行いました。

飛び交う質問やワークショップ後のアンケートから、ボランティアはカンボジアの若者にとってまだまだ馴染みの薄いものであることが分かったと同時に、学生たちが民間ユネスコ活動やボランティア活動に大きな関心を示していたことが分かり、私たちは大いに勇気づけられました。



左からシニン職員、森さん



「ボランティア」について
グループで話し合い

カンボジアにおける未来のユネスコ活動の担い手となる人材がこの大学から生まれるかも知れません。

詳しくは機関誌9月号に掲載しています。

機関誌購読のお申し込みをご希望の方はこちら

<https://www.unesco.jp/contents/kikanshi/application.html>

出張こぼれ話

「虫が怖くちゃカンボジアでは生きていけない！」

教育文化事業部 池本まり子

世界で嫌いな生き物を三つ挙げろと言われたら「ゴキブリ」「グロテスクな虫」そして「蛇」と答えるだろう。他の物（人間も動物もすべて含む）に関してはほとんど好き嫌いのない私がどうしても耐えられないもの、それが虫と蛇なのだ。

カンボジアに出張するようになってからこの「苦手なモノシリーズ」に直面する機会が急に増えた。カンボジアでは、ゴキブリはもちろん、蛙、蛇、ヤモリ、蜘蛛、巨大蟻等が至るところにゾロゾロ。今生活しているシェムリアップ事務所内でもヤモリ君やゴキブリ君には毎日遭遇する。そう、もはや彼らを嫌いなんて言うてはいられないのである。まずは“君”付けて呼ぶことから自分から虫に歩み寄ろうと努力中。

カンボジアの人たちは虫と共に生きていると言っても過言ではない。ある日隣りに住んでいる大家さんが庭先でモゾモゾ動く籠いっぱい虫の羽を一匹一匹丹念にむしっていた。聞くと、土の下から掘りおこして集めたコオロギだと言う。（ゴキブリ君でなくて一安心）このコオロギ君、羽を取って内臓を抜いた後、ニンニクと油に漬け、塩と砂糖でさらに揉んだものを揚げて食べるととてもおいしいのだそう。



おいしそうな?! コオロギ君・・・

内心ビクビクしながら写真を撮っている私に「一緒にやらない?」と笑顔でコオロギ君を差し出してきた大家さん（写真上・左）に、「いつか勇気が出たら!」と苦笑いで返す私。カンボジアでは、蛙や蜘蛛の揚げ物を普通に食べる人たちがたくさんいる。特に蜘蛛の揚げ物（タランチュラ）は見た目にもグロテスクで、怖くてまだとても食べる勇気はない。でもいつか、いつかは試してみたいと思う。



路上でタランチュラを売る女性

このこぼれ話を讀んだ皆さん、カンボジアの食は虫や珍味ばかりではありません。ベトナム料理とタイ料理のおいしいところを集めたような、日本人に親しみやすい味付けの料理が多いのです。怖がらずに現地にいらしてくださいね!

National Federation of UNESCO Associations in JAPAN 〒150-0013東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12F E-mail [nfuj_inf@unesco.or.jp](mailto:nfuaj_inf@unesco.or.jp)

(社)日本ユネスコ協会連盟は、1947年、ユネスコ憲章の精神に共鳴した人びとによって、世界にさきがけて仙台で始められた民間ユネスコ運動を続けるユネスコ協会の連合体です。現在ユネスコ協会の数は日本各地に約300、「世界の平和と人類の福祉」の実現を目的に、教育支援活動としての「ユネスコ・世界寺子屋運動」や有形・無形の自然や文化を守るための「世界遺産活動」、未来を担う子どもたちを応援する「青少年育成活動」などに取り組んでいます。